

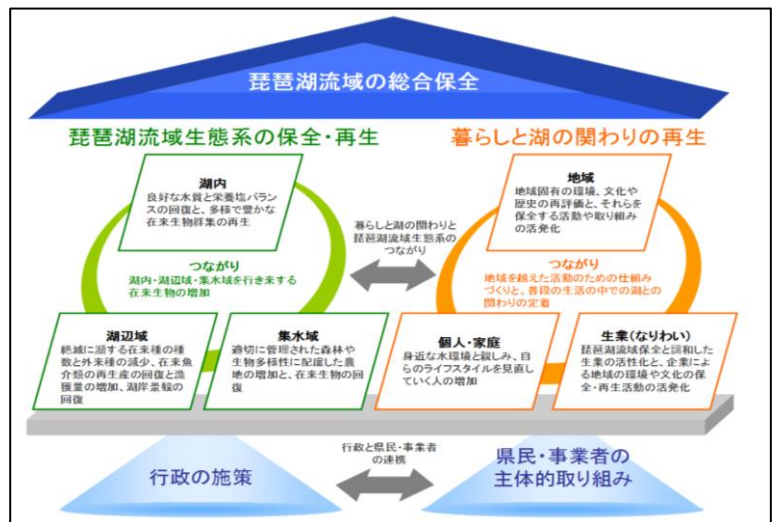
## (仮称) マザーレイクフレームワークの構築について

### 1. マザーレイク 21 計画によるこれまでの取組

マザーレイク 21 計画（第 2 期）では、「琵琶湖流域生態系の保全・再生」と「暮らしと湖の関わり」を目標の柱に掲げ、「つながり」をキーワードに、行政施策の推進とあわせて、多様な主体のみなさんの取組を後押ししてきました。

マザーレイクフォーラム「びわコミ会議」には、毎年 200 名程度の参加者が琵琶湖との関わりを約束するコミットメントを宣言するなど、取組は一定の成果をあげてきたといえます。

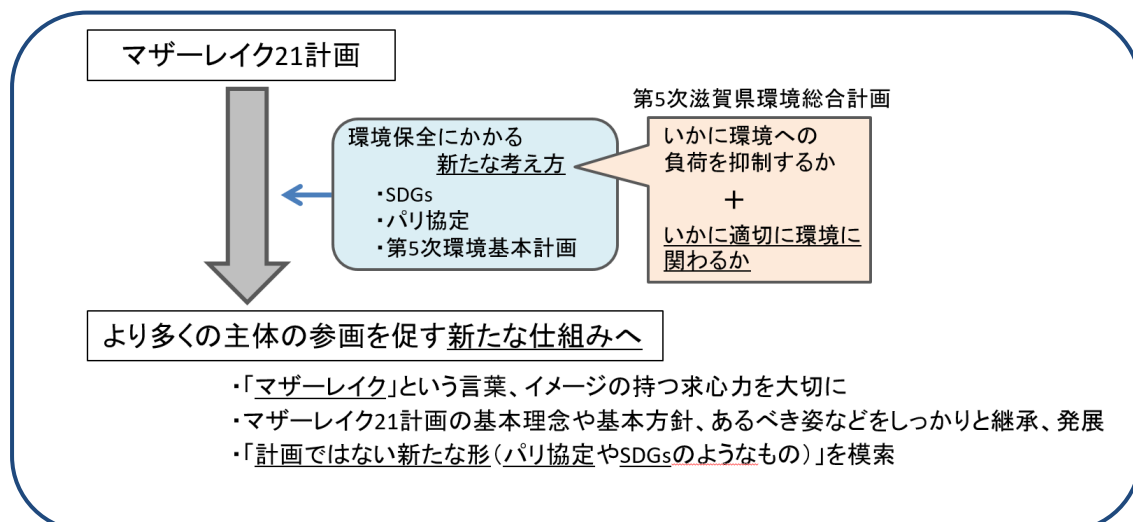
一方、参加者の広がりという点では、個人の参加者が環境意識の高い層に限られてしまったことや、企業からの参加が少ないといった課題が残りました。ますます複雑化、多様化する琵琶湖の課題を解決していくためには、県内だけでなく、下流域も含めたさらにより多くの多様な方々とともに、琵琶湖の保全の取組を進めていく必要があります。



マザーレイク 21 計画（第 2 期）の取組の方向性

### 2. 今後のあり方の方向性

ますます複雑化・多様化する琵琶湖の課題を解決していくためには、県や市町による琵琶湖保全再生施策を推進すると同時に、「マザーレイク」という言葉の求心力やマザーレイク 21 計画の強みを生かしながら、環境保全にかかる新たな考え方を取り入れ、より多くの主体のみなさんが、積極的に琵琶湖の課題解決に関わることのできる、計画という形にとらわれない新たな「枠組み」を構築していくことが必要です。



### 3. (仮称) マザーレイクフレームワークのイメージ

新たな「枠組み」( (仮称) マザーレイクフレームワーク) は、多様な主体の皆さんが共有する目標と、多様な主体の皆さんが参加する場・プラットフォームの2つの要素があります。

#### (1) マザーレイクゴールズ (MLGs)

より多くの主体のみなさんが参画する(仮称) マザーレイクフレームワークの中心には、2050年頃の琵琶湖のあるべき姿に向けた、2030年までに達成する目標「マザーレイクゴールズ(以下「MLGs」と言います。)」を掲げます。

MLGsは、いわば琵琶湖版のSDGsとも言えるもので、県民、関係団体、企業、大学、県、市町など多様な主体のみなさんが琵琶湖の保全のために取り組む際の共通の目標となります。

#### (2) プラットフォーム等、多様な主体が参画する仕組み

より多くの主体のみなさんが参加できる場・プラットフォームは、現行のマザーレイクフォーラムの仕組みを基に整えていきます。また、MLGsの進行管理は、学識経験者や多様な主体のみなさんによる議論の場を通じて行います。

県はこのプラットフォームに一参画主体として参画し、琵琶湖保全再生計画等に基づく施策の実施を通してMLGsの達成に貢献するとともに、進行管理に必要な各種指標のとりまとめ等を行います。

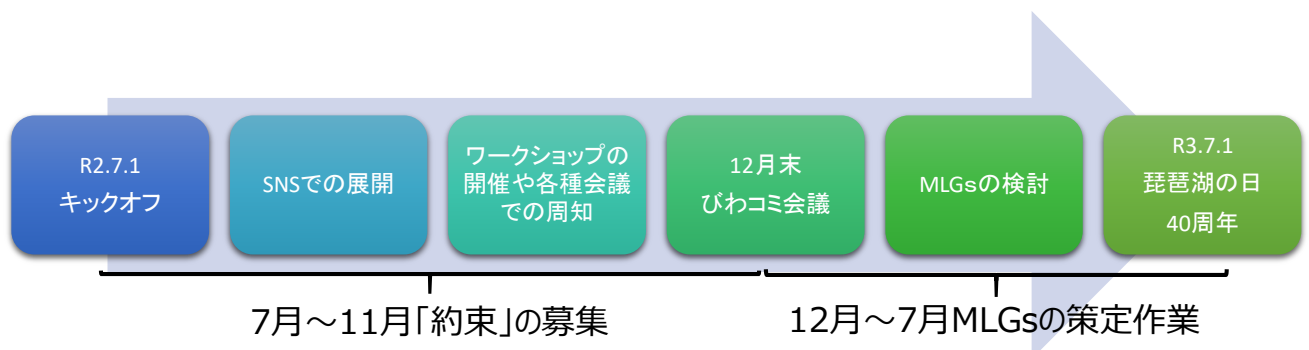
### 4. マザーレイクゴールズ (MLGs) の策定

MLGsは、多様な主体の皆さんから集める「10年後の琵琶湖との約束」(以下「約束」と言います。)を基に作り上げていきます。

約束は、ワークショップの開催やSNSでの呼びかけなどを通じ、県内だけでなく、多様な主体のみなさんから幅広く募集します。

#### 【スケジュール案】

- ① 令和2年7月1日びわ湖の日(琵琶湖条例施行40周年)を約束の募集開始のキックオフとする。
- ② 12月末にマザーレイクフォーラム「びわコミ会議」を開催し、約束の取りまとめを行う。
- ③ 令和3年7月1日びわ湖の日(びわ湖の日40周年)に、MLGsおよびプラットフォーム等を策定する。



今後、新たな「枠組み」( (仮称) マザーレイクフレームワーク) を具体化するに当たっては、マザーレイクフォーラムにおける議論やワークショップ、環境審議会や県議会での議論等、より多くの主体のみなさんとの間で慎重かつ丁寧に議論を重ねて参ります。